

「ピーチェック！」結果報告書



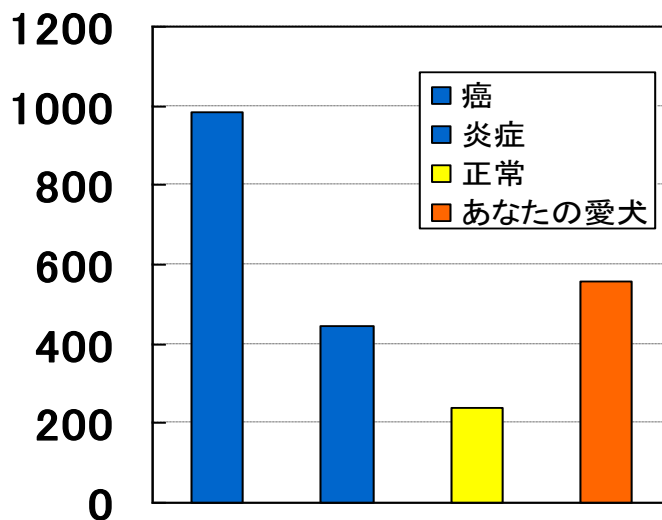
佐藤 マロン ちゃん (6歳)

採尿日: 2008年 10 月 4 日

あなたの愛犬のアセスミン

判定 **C**

尿中アセスミン検出結果



この検査では、癌細胞によって代謝され尿中に排出されてくる「アセスミン」という化学物質の量を測定しています。

* 判定基準について

臨床的に癌と確定診断されているグループ、臨床的に炎症を確認しているグループ、临床上健康と考えられるグループについての尿中アセスミン濃度(クレアチニン補正)をあらかじめ取得しました。この結果に対応して、検体中のアセスミン濃度から以下の判定を行っています。

A: 良好です、B: 健康に注意しましょう、C: 疾患が疑われます、D: 重大な疾患が疑われます。

状態	アセスミン検出量と疾患の関係
正常	健康な時には、アセスミンが増えることはありません。尿中からも微量しか検出されません。
炎症	炎症のために一時的に体内のアセスミン量が増え、尿中に排出されます。炎症が治まると排出量は減少します。
癌	癌の増殖に伴って大量のアセスミンが体内で作られ、尿中に排出され続けます。癌の進行に伴って検出量が増加して行きます。

アセスミンは炎症がある場合にも一時的に尿中に排出されることがあります。継続的に検出される場合や高い値を示した場合には、早期癌である可能性もありますので注意が必要です。アセスミンが検出された場合でも、今回の判定結果のみでは、癌と炎症の明確な判断はできません。他の疾患の可能性を排除した上で、アセスミン検出量の変化を調べることをお勧めします。炎症があるかないかは血液検査によっても調べることができます。次回検査までご心配な方やお急ぎの場合には獣医師にご相談下さい。

現在の獣医学では、血液検査により癌を見つけることは容易ではありません。また、進行している癌では炎症を伴っていることも多いので、血液検査の結果解釈には十分にご注意下さい。

次回検査時期の目安: **3ヶ月以内** (最低でも年2回の検査をお勧めしています)